

名前

を知る



フクジュソウ
(福寿草・チライアパッポ)

✂ ザゼンソウ — 僧が座禅をする姿に似ているため ✂

この冊子は、草花の名前を覚えようという考えでは作られていません。個々の草花の名前をわかってもらおうとも考えていません。

それより、いろいろな見方をわかることで、少し草花を身近に感じてもらおうとしています。

しかし、名前がつまらないわけではありません。名前にはその草花に対する人の思いが込められています。その草花の特徴が表されています。名前の持つ思いがけない意味を知ると、また少し、草花を身近に感じられるのではないでしょうか。

草の名前	名前の意味	アイヌ語名
オオイタドリ	「大きなイタドリ」の意味。 「イタドリ」は同じくタデ科の草。 ①痛み取りの薬効があるため「痛み取り」から「疼取(いたどり)」とつけられた。 ②表皮から糸状のものを採るため「糸取り(いとどり)」から。	クツタル。 本来は「イコクツタル」で「節・多くある・中が空洞の茎」の意味。 新得町の「屈足」の語源。
フクジュソウ (毒草・薬草)	「福寿草」 ①旧暦の元日頃(新暦の1月下旬から2月中旬)姿を現し(本州以南)、新年を祝う花として正月飾りとされたため、めでたい福寿(幸福と長寿)とつけられた。 ②開花期が長いことが長寿につながり、黄金色の花が黄金に通じるとされたことから。	チライアパッポ。 「イトウ・花」の意味で、この花が咲き出すと間もなくイトウが川を遡ってくるので、漁の支度にかかれと告げているのだという。 別名 「チライウレブ(イトウ・莓)」 「チライキナ(イトウ・草)」
クサノオウ (毒草・薬草)	「草黄」葉を切ると黄色の汁を出すため。 「草王」丹毒(傷ついた皮膚に菌が入って起きる炎症)を直すから、草(瘡=くさ)の王だともいう。 ※：瘡(かさ)皮膚病の総称。できもの	オトンプイキナ。 「肛門・草」の意味で、痔になった時、この草を肛門にさしたという。
ミズバショウ (毒草・薬草)	「水芭蕉」 湿地に生え、葉が大きくバショウ(芭蕉)の葉に似ているため。 バショウは中国原産の観賞用多年草。もともと「芭蕉」は広くバナナ類(甘蕉)を指す。	パラキナ。 「幅広い・草」の意味。 別名「イソキナ(クマ・草)」で、冬眠明けのクマが腸内の脂肪分を排泄させるために食うという。

参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北の生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」 関秀志・矢島睿・古原敏弘・出利葉浩司 北海道新聞社 1997

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野幹夫・大場秀章・西田誠 編集 北隆館 1989

「北海道の花」 鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「広辞苑 第三版」 新村出 編 岩波書店 1983